埼玉県ＩＣＴ活用　実践事例

ＩＣＴで　授業　をＤＸ！

学年　小学校３年　　教科など　社会

手元で確認！大きく見えるぞプレゼンShow！

使用するアプリケーション等
・ﾐﾗｲｼｰﾄﾞ
（ｵｸﾘﾝｸ・ﾄﾞﾘﾙﾊﾟｰｸ）
（PowerPoint・Teams可）
・Forms・Padled
・Windows録画機能

単元・題材　火事を防ぐ

本時の目標　学習を振り返り、火事からくらしを守る人々の工夫や努力をまとめ、表現することができる。（思考力・判断力・表現力等）

ＩＣＴを活用することで　できること

・学習過程をスライド化することで、発表者の思考の流れを可視化することができる。
・資料がデジタル＋アナログになることで、「書いたものを写真データにする」、「見出しは文字打ちにする」など取捨選択できる。
・発表者の資料を画面共有することで、聞き手側は手元で資料を確認できるようになり、理解しやすくなる。
・発表者はプレゼンアプリを使用することによって、事前に練習したり何度も録音したりできるようになる。
・挙手による感想発表や助言ではなくなるため、全員の考えが発表者に届く。

ＤＸ前（ＩＣＴを使っていなかった頃は・・・）

1　導入
①単元全体の既習事項を簡潔に確認する。
　●教科書を開きながら１ページずつ確認する。
②単元のまとめとして作成した新聞を発表することを確認する。

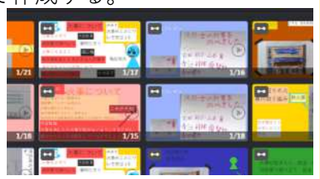
2　展開
めあて　　学習内容をまとめた社会科新聞のプレゼン発表会をしよう。
①完成した社会科新聞を机上に置く。
　●児童同士で社会科新聞を見合う。
②プレゼン発表会を行う。
　●発表者は社会科新聞を見ながら説明する。
　●デジタルカメラで撮影した社会科新聞を大型TVに映す。
③聞き手側は発表者に対して、質問したり賞賛したりする。
　●挙手による感想発表や用紙への記入をする。

3　まとめ
消防署の人たち、消防団・地域の人たちが消防施設を使いながら協力し合い、
火事の被害を防ぐための工夫や努力を行っている。だから、火事からわたしたち
の安全なくらしが守られている。
①発表を通して単元全体の振り返りを行う。
　●ノートに記述する。
②本単元の定着度を確かめるための課題に取り組む。
　●プリント学習を行う。
③社会科新聞を学級掲示する。

DX!

ＤＸ後　（赤字はICT活用場面）

○　事前
①前時の授業で社会科新聞を完成させる。
②完成した社会科新聞を写真に撮り、オクリンクでデータ共有する。
　●プレゼン資料としてわかりやすいように、全体を数か所に分けて作成する。
③家庭学習としてGIGA端末上で学級の社会科新聞を確認をする。


↑児童が提出したものが一覧となって把握できる。

1　導入
①単元全体の既習事項を簡潔に確認する。
　●板書（画像データ）を大型TVに映し既習事項を想起する。
②単元のまとめとして作成した新聞を発表することを確認する。

2　展開
めあて　　学習内容をまとめた社会科新聞のプレゼン発表会をしよう。
①プレゼン発表会を行う。
　●発表者と聞き手は画面共有を行い、同じ画像を見ながら発表する。
　●発表ページを小分けにし、資料がわかりやすいようにする。
②聞き手側は感想や助言を行う。
　●Padletにて感想や助言を発表者へ送る。

↑必要部分のみを１ページとし送信して発表する。

3
消防署の人たち、消防団・地域の人たちが消防施設を使いながら協力し合い、
火事の被害を防ぐための工夫や努力を行っている。だから、火事からわたしたち
の安全なくらしが守られている。
①発表を通して単元全体の振り返りを行う。
　●ノート記述の他に、Formsにて単元理解度のアンケート調査を行う。
②本単元の定着度を確かめるための課題に取り組む。
　●ﾄﾞﾘﾙﾊﾟｰｸに取り組む。

○　事後
①次時にPadletに書かれた助言を確認し、発表の修正を行う。
②家庭学習でプレゼンを録画・録音しオクリンクに提出する。
③教員はオクリンクに提出されたものを評価する。

↑Padletに児童が書いた感想。発表者ごとに分かれている。

授業者から（成果・課題・留意点）
・画面共有をし発表することで、説明箇所が明確になり理解度が深まった。また、児童が端末を操作することで教員の負担が減った。
・紙ベースでは完成後に修正が難しかったが、データにすることで、その部分だけを修正することが可能となった。
・録音作業は個別に静かな所で行うため、家庭学習で行うこととした。保護者にも学習内容がわかり、学校への理解関心が深まった。
・単元理解度アンケートを行うことで、単元テストの点数では表せない、学級全体の理解度を知ることができた。
・発表者に対する感想や助言を数名からではなく、全員からもらえるようになった。